

# 仕事と生活の調和に関するワーキング・グループにおける論点例

## ■ 仕事と生活の調和に関する論点

### I 男女共同参画の観点からみたワーク・ライフ・バランスの課題は以下のような認識でよいか。

#### ○女性の活躍とWLB

- 出産・育児等を超えて女性は働き続けられる、或いは再就業できるような環境整備
- 女性管理職比率の向上
- 女性の参画が少ない分野への参画促進（参考：女性の参画加速プログラムにおける重分野は医師、研究者、公務員）

#### ○地域の男女共同参画とWLB

- 地域社会への若年層や男性の参画の促進
- 地域の企業（中小企業）への浸透

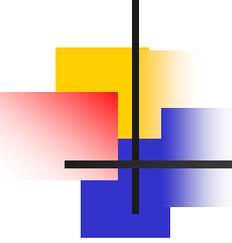
#### ○男性の多様な選択とWLB

- 家庭生活における希望と現実のギャップの解消

#### ○「生活困難」とWLB

- 「経済的自立」が可能な条件整備
- 女性が働き続けられる環境整備によって、就業経験の不足や短い就業期間が低い所得水準、年金水準に結びつく状況を解消
- 地域社会における男性の孤立の解消

#### ○企業・組織において全てのメンバーの仕事と生活の調和と能力発揮を実現する働き方全体の見直しの必要性



## Ⅱ 今後新たに検討すべき課題は何か。

### ○「ライフ」の充実をどう実現するか。

➤個人が「ライフ・プラン」を持ち、実現する力をどうつけるか。

参考:「ワーク・ライフ・バランス」推進の基本的方向

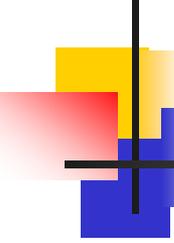
✚「ワーク・ライフ・バランス」とは老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態

✚「ワーク・ライフ・バランス」の理解にとって重要な3つのポイント

- ・ワーク・ライフ・バランスはあらゆる人のためのもの
- ・人生の段階に応じて、自ら希望する「バランス」を決めることができるもの
- ・ワーク・ライフ・バランスは「仕事の充実」と「仕事以外の生活の充実」の好循環をもたらすもの

### ○多様な働き方のワーク・ライフ・バランスをどう実現するか。

➤正社員以外の働き方、雇用者以外の働き方におけるワーク・ライフ・バランスをどう考えるか。



## ■ 各ワーキング・グループ共通の論点

### I 風土の改革・気運の醸成、あらゆる年代層への広報・意識啓発と実践的取組

(論点の例)

- 若年層では男女で男女共同参画意識の傾向に差がみられるという現状もあるが、若年層への効果的なアプローチについて
- 男女共同参画の問題について、メディアや幅広い主体との効果的な協働や、コミュニケーションの充実をどのように図っていくか
- これまで男女共同参画に関心が薄かった層にも分かりやすくメッセージを伝える方策について
- メディアが男女共同参画意識に与える影響について
- 男女のための新しい社会変革という男女共同参画社会実現の意味を誤解なく伝え、新たな流れを作っていくための方策について

### II 国と地方の推進体制の整備充実・地方公共団体、企業、大学、NPO、地縁団体、男女共同参画センター等との連携強化

(論点の例)

- 地方公共団体における推進体制の充実や関連施策の着実な推進をいかに進めていくべきか
- 国と地方公共団体(特に市町村)との連携を進めるためにはどのような仕組みが有効か
- 企業や政党といった多様な主体が、自ら男女共同参画に主体的に参画する仕組みをいかに進めるか
- NPO、地縁団体等が活躍できるような基盤をどのように作っていくか
- 世代や地域や分野を超えてネットワークを形成し、連携協力していく方策について
- 女性のライフコースに沿ったエンパワーメントに当たっての男女共同参画センター等の役割について 3